

ノーベル賞受賞に関するNIHの発表について（10月10日）

米国国立保健研究所（NIH; National Institute of Health）は10日、NIHのグラント採用者である、ハワード・ヒューズ医学研究所（Howard Hughes Medical Institute）及びデューク大附属病院（Duke University Medical Center）のロバート・レフコウィッツ氏（Robert J. Lefkowitz）と、スタンフォード大医学部のブライアン・コビルカ氏（Brian K. Kobilka）の2名が、Gたんぱく質共役（きょうやく）受容体の構造の解明により、ノーベル化学賞を受賞したと発表した。

NIHの国立心肺血液研究所（NHLBI; National Heart, Lung, and Blood Institute）はレフコウィッツ博士の研究に対して1974年に支援を始め、今まで約1,500万ドルが支給されている。また、コビルカ博士は、1,400万ドル以上の支援を国立神経疾患・脳卒中研究所（NINDS; National Institute of Neurological Disorders and Stroke）、NHLBI、及び国立一般医科学研究所（NIGMS; National Institute of General Medical Sciences）から1990年以降受けている。

2名の受賞を受けてNIHのフランシス・コリンズ所長（Francis S. Collins）は、「全ての薬のおよそ半数は、ベータ遮断薬・抗ヒスタミン薬・抗精神薬も含めて、Gたんぱく質共役受容体を介して作用している。NIHとしては、この研究を支援してきたことを誇りに思う。この研究は、基礎科学から始まって最終的には劇的な医学の進歩につながった」とのコメントを寄せている。

また、NINDSのストーリー・ランディス所長（Story C. Landis）は「NINDとして、本日ノーベル賞委員会によって認められた基礎科学の功績を支援してきたことを嬉しく思う。コビルカ博士の研究は、神経系の細胞間信号伝達を明らかにし、分子レベルの基盤について非常にすばらしい見識を与えてくれた」とコメントし、NHLBIのゲイリー・ギボンズ所長（Gary H. Gibbons）も、「レフコウィッツ博士とコビルカ博士の画期的な研究は、血圧と心拍数がアドレナリン等のホルモンに反応して制御される仕組みを解明する道を開いた。それは、高血圧・狭心症・冠動脈性心疾患等の疾患を治すベータ・アドレナリン受容体遮断薬の開発につながった。NHLBIとして、彼らを支援してきたことを嬉しく思う。彼らの研究は、公衆衛生の向上について将来有望な見識を生み続けている」とコメントしている。

NIH Grantees Win 2012 Nobel Prize in Chemistry

<http://www.nih.gov/news/health/oct2012/od-10.htm>